

書窓

Shoso

No.478

2025.3

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鰯

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

三月に

おんどりは鳴き、

小川は流れる。

小鳥はさえずり、

湖は輝く。

緑の野は、日の光をあびてまどろみ、

老いも若きも、たくましい男らと共に

野に出て働く。

牛は頭を下げたまま、草を食べ食べ

牧場を歩く、

四〇頭がひとかたまりにかたまつて！

雪はいまや戦いやぶれ

退却を重ね、丘を登って

ついにその頂^{たかね}からも消え去った。

農夫の少年が声上げる——ホーイ、ホーイと。

丘はよろこびに満ちあふれ、

泉にはいのちあふれ出る。

青い空がいつぱいに広がって

あちこちに小さなちぎれ雲がとんでいく。

雨は終わった、行ってしまった！

ウィリアム・ワーズワース

間崎ルリ子訳

子どもの本だな 135

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

しょうぼうね」

エスター・アベリル 作

藤田 圭雄 訳（文化出版局）

アパートの裏庭に、ピックルズという名前のねこが住んでいました。高い木から降りられなくなり消防士に助けってもらったピックルズは、しょうぼうねこになろうと、消防署に住み込み、仕事を覚えます。出動のベルが鳴るとピックルズは消防士のあとにつづき素早く柱を滑り下り、大きな消防自動車に飛び乗ります。火事場では、太いホースを前足でしっかりとおさえ、消防士が水をかけるのを手伝います。ピックルズのはたらきをみていた署長から消防士の小さな帽子が贈られました。

ある日、署長がさげびました。「ねこがきのうえにいるぞ。」現場にかけつけるとピックルズははしごをのぼり、高い木からこねこを無事に助けました。

立派なしょうぼうねこへと成長するピックルズの姿に勇気づけられます。挿絵は黄、赤、黒で鮮やかに描かれ、ピックルズのいきいきとした動きが、お話をより一層盛り上げます。読んでもらえば、4〜5歳から。
(盛岡)



2020年から毎年、網干のレンコン畑で子育てをするセイタカシギ、太子町にも飛来するようになったコウノトリ。身近な野鳥のおなはしから、野鳥を取り巻く自然に目を向けてみましょう。

- ▶ 講師：三木 敏史 さん（日本野鳥の会会員）
- ▶ 日時：3月23日(日) 14:00～16:00
- ▶ 場所：丸尾建築あすかホール ミニシアター
- ▶ 定員：70名（要申込）
- ▶ 申込：太子町立図書館

3月の開館日							4月の開館日						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			X	2	3	4	5
2	3	X	5	6	7	8	6	7	X	9	10	11	12
9	10	X	12	13	14	15	13	14	X	16	17	18	19
16	17	X	19	20	X	22	20	21	X	23	24	25	26
23	24	X	26	27	28	29	27	X	X	X	X		
30	X												

▶ ×印は休館日

- ・ 祝日の振替休館
3/21、4/30
- ・ 館内整理日
3/31、4/28

※閉館時は返却ポストをご利用ください。

▶ 開館時間：
10:00～18:00
※金曜日のみ
10:00～20:00

3月	4月	3・4月の移動図書館（いずれも木曜日です）					
6日	10日			福地(三反長) 地域内 14:30～ 14:50	米田 公会堂 15:00～ 15:20	竹広南 公民館 15:30～ 15:50	
13日	17日			原池団地 公民館 15:00～ 15:20	山田 掲示板前 15:30～ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00～16:20	
20日	24日	広坂 公民館 10:30～ 10:50	上太田 公民館 11:00～ 11:20	塚森 地域内 15:00～ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30～ 15:50	吉福 公民館 16:00～ 16:20	



地下水

「うちの子、凧揚げをしたことがありませんよ。」と小学生のお子さんを持つお母さんが言われた。確かに近所でも子どもが凧揚げをしている姿を見かけない。昔はお正月に身内が集まると、従姉が凧揚げに公園に連れて行ってくれた。風に乗って揚がった連凧を渡してもらってとても楽しかった記憶がある。羽子板、すごろく、福笑い：昔ながらの子どもの遊びを、令和の子どもたちはどれぐらい経験できているのだろうか。そんな思いで、2月22日(土)に工作教室「オリガミカイトをとぼそう」を開いた。折り紙を半分に折って好きな形に切る。大事なのは折り紙が左右対称であること、真ん中より少し上に穴を開けて糸を通すこと。後は棒にくくりつけて手を高くあげて歩く。準備も簡単で、室内でもよく揚がるのだ。参加したA君は凧の揚がる仕組みに興味津々だった。先日参加した理科教室で飛行機が飛ぶ仕組みを覚えてもらったばかりらしい。知識が経験と結びついた喜び、その表情はきらきらと輝いて見えた。図書館にはまだたくさんのお工作やイベントの本がある。さて、次はどんなお工作の計画を立てようか。

(八木)